



～メール～ No3

神奈川県秦野市教育委員会
〒257-8501 秦野市桜町1丁目3番2号
0463-84-2783 文責 佐藤直樹

☆新しい年2023を迎えて☆

新年あけましておめでとうございます。保護者並びに地域の皆様方には、日頃より本市の学校教育・社会教育にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの発生から3年目が過ぎても、いまだ収束が見通せず、さらには、海の向こうでも平和の大切さを改めて考えさせられる事態が発生し、なかなか先が見通せない状態で新年を迎えることになりました。

依然として想定外の出来事が続いておりますが、今年も学校と協働し一つ一つの出来事に向き合い、「積小為大」の教えも生かしながら、「こどもファースト」で最善を尽くしてまいりたいと考えております。学校は子どもたちの夢と希望を育む場所であり、同時に民主主義の土台を創る学びの場です。

引き続き、ふるさと秦野を担う子どもたちと「最大の教育環境ともなる先生方」へのご支援をよろしくお願いいたします。



～ 献立募集決定！力作に感謝～

市民の皆様から広くアイデア献立を募集し、給食運営審議会及び教育委員会会議等により意見を集約し、**入賞献立作品を決定しました！1月以降順次、提供予定**です。

生徒・保護者部門		
市長賞	西中学校 2年3組 竹之内 愛琉さん	梅しそささみの お茶の葉揚げ
教育長賞	西中学校 2年3組 瀬戸 結愛さん	さつまいもシチュー
教育長賞	南中学校 保護者 金子 幸文さん	ひき肉の炒り豆腐
生産者部門		
市長賞	宮村農園 永浜 敬子さん	中華うま煮
教育長賞	古谷 昇さん ご夫婦	古谷さん家の ジャーマンポテト
商業者部門		
市長賞	株式会社 米専門店やまぐち様	鶏もも肉の 甘酒照り焼き
教育長賞	コントレイルマーケット 伊澤 芳美さん	鎮江番餅で本格的！ 彩りたまご炒め

子どもたちの夢を育む秘訣！

神戸大学では、子ども時代の「褒め方」と「叱り方」が大人になってからの習慣や行動にどのように影響を与えるのか調査を行ったようです。

その研究によると、褒め方では、「頑張ったね」と努力を評価する言葉が、「えらいね」と能力を評価する言葉や、結果に対し「褒美」をもらうことより、ポジティブな影響を残していることがわかったとのこと。また、叱り方では、「次は頑張ろうね」と励ますほうが、「罰」に比べてより良い影響を与えているようです。

現在本市でも、児童生徒の学ぶ意欲を引き出す非認知能力に着目し、「わかる・楽しい」授業への転換を図り、子どもたちの夢と希望を育むよう努めてまいります。

デジ田甲子園で14位と健闘

昨年8月、誰一人取り残さないデジタル社会の実現を目指す「デジタル田園都市国家構想」推進の方策として開催されました。「Digi田(デジデン)甲子園」ですが、おかげさまで、神奈川県代表として参加した**秦野市の54名の先生方で組織されたICTマイスター制度は、全国14位と高い評価を得ることとなりました。**

なにせこのチャレンジは予算0で、先生方の努力と各家庭の支援あつての制度です。同じ部門の準優勝は、街ぐるみで取り組んだデジタル地域通貨でしたから、いかに教育分野の健闘したかお分かりいただけると思います。

引き続き、**新たな学びのスタイル定着にご理解とご協力**をお願いいたします。

ご支援感謝！

◇夢中は努力に勝る！◇

論語という有名な昔の書物に「努力は夢中に勝てない」という言葉があります。「努力する人」と「夢中な人」を比較すると、**夢中な人のほうが高い成果を出せる**傾向にあるという解釈がなされているようです。野球選手のイチローさんも、「**努力を努力だと思っている時点で、好きでやっているやつには勝てないよ**」と書いていました。「**努力に勝る才能なし**」という言葉も、大事にしたいですが、**子どもたちの夢や希望を育むためには「やる気」を引き出すことが重要な**のは間違いないです。そしてデジタルな社会だからこそ、**学校教育では体験や経験を大切にしていきたい**ものです。



コロナに負けず活躍する秦野っ子！

2022年は、コロナに負けず秦野っ子の活躍が目立ちました。ほんの一部ですが、紹介します！

中学生部活動で大躍進

本町中学校ソフトテニス部が県大会優勝、そして渋沢中学校野球部が県大会準優勝、北中学校が第3位と素晴らしい成績を残してくれました。他にも多くの部活動で秦野っ子が活躍し、地域に元気を与えてくれました。

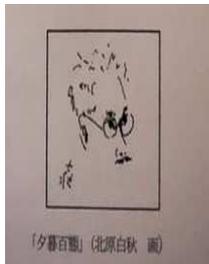
親子川柳・前田夕暮こども短歌大会の応募作品増加！

第2号でもお願いしましたが、秦野の特色ともなる2つの事業で、児童生徒の参加が増えました。親子川柳は、平成22年度に第1回を開催して以来、今回で第13回を迎え、今年は昨年を上回る1,000作品が集まりました。デジタル社会の「今」だから一層重要となる絆を深める機会の一助になればと期待しています。

地域とともに、そして特色ある学校づくりに向けて

私は、社会教育との連携・協働の具体的なシンボル事業として、「親子川柳」と「夕暮こども短歌大会」、更には「読書活動推進」そして「はだのっ子アワード」を四本柱と考えています。

来年は前田夕暮生誕140周年、震生湖も100年目の節目を迎えます。デジタルの時代だからこそ秦野の子どもたちには「ふるさと」を学ぶ機会には積極的に取り組んでほしいと願っています。



第13回親子川柳大会表彰式より



県福祉作文コンクール受賞者

こちらは社会福祉協議会主催の福祉作文コンクール！県下で最優秀となる県知事賞を受賞したのは、北中学校1年の古谷さん！受賞者4名で市長に報告をしていただきました。こちらも素晴らしい快挙！（秦野公式YouTubeモービクより引用）

福祉作文入賞者 県知事賞

古谷 陸翔さん
(北中学校1年)

新聞社長賞

高橋麻帆さん
(函嶺白百合6年)

優秀賞

遠藤静乃さん
(鶴巻小学校5年)
川添 鳳さん
(東中学校1年)

市のHP各校の特色を更新しました！ぜひご覧ください。

秦野～小中学校～特色 で検索すると、各学校の特色が出てきます。クリックして自分の学校を探してみよう！

何でも 自分事に 考える

第1号では「教育は人なり」、第2号は「子どもファースト」について触れました。第3号では、新採用の先生方に贈った「自分事」という言葉です。特に、新採用の先生方には、**何でも自分事として考える想像力が創造力ともなるよう思考の習慣化を目指してほしいと期待しています。**その原点は、私自身の学級担任や部活動の顧問の経験から来ています。自分の子どもがこの学級にいたら、自分の子どもがこの部活動にいたら、という意識で教師を続けてきました。様々なニュースも飛び交いますが、常に自分事として考えるようにしています。